

神奈川県立横浜ひなたやま支援学校 第2回学校運営協議会 開催報告

本校の学校運営協議会を次のように開催した。

名称	神奈川県立横浜ひなたやま支援学校 第2回学校運営協議会
開催日時	令和5年10月31日(火) 9:30~12:00
開催場所	神奈川県立横浜ひなたやま支援学校 ふれあいルーム
出席者	学校運営協議会委員6名 学校事務局8名
次回予定日	令和6年2月27日(火) 9:30~12:00
問合せ先	横浜ひなたやま支援学校 副校長 鈴木 剛 電話 045-300-5611 FAX 045-303-2330
議題	令和5年度 学校運営協議会 第2回会議についての確認 地域防災部会 第2回地域防災訓練の予定内容 校舎内見学 学校評価部会 ・令和5年度学校評価報告(中間評価)について ・令和5年度不祥事ゼロプログラムについて 切れ目ない支援部会 ・共生社会の実現に向けた取組について
審議(会議)経過	(1) 会長挨拶 今まで新型コロナを話題にしていたが、やっと落ち着いてきた。この会議の構成を見ても生徒の様子を見るなどの通常の形となっている。本日は学校評価の中間評価や、切れ目ない支援部会への意見をお願いしたい。  (2) 副会長挨拶 机の上に、開校10周年を記念して作った品物を置かせてもらった。昨年11月が10周年だったが、新型コロナのことがあり今年度の実施となった。トートバッグなど子どもたちが用意してきた。  (3) 自己紹介 省略 事務局からの自己紹介 省略  ・資料1について 「助教授」を「助教」に訂正。
	2 地域防災部会 委員 昨年まで新型コロナの影響があったが、今年度から例年の形で

の防災訓練の実施を計画してきた。しかし、秋季防災訓練を9月3日に開催する予定だったが、猛暑の時期は避けるように通知が来て、11月12日に延期になった。体育館が工事中のため、ふれあいルームでできることを企画した。DVDの視聴、ペットの避難やはまっこトイレ、炊飯訓練（おにぎりづくり）、区の本部との無線を使った交信など、できることをやる。防災拠点の運営委員だけで行う。

阪神淡路大震災の教訓から冬の訓練（寒さや暗さの体験）をしていたが、体育館が使用できないため中止にする予定。来年には例年どおり実施していきたい。猛暑の状況は変わらない見込みなので、来年も秋の訓練は9月ではなく11月くらいに実施していくかもしれない。

#### 委員

9月の訓練は、瀬谷区は延期したが、他の地域はみんな実施したらしい。

#### 委員

この地域には、区役所から3名ほど応援が来ているが、その方たちの強い助言があったため、延期にした。

### 3 校舎内見学

作業をやっている学年と、通常の授業をやっている学年がある。委員の方々6名1グループで校内の授業見学を行った。

### 4 学校評価部会

#### ①令和5年度 学校評価報告書（中間評価）について

各グループより、パワーポイントを使用して、これまでの取組状況や課題改善方策等について説明。

#### <教務グループ>

・授業参観後、保護者からアンケートを取った。子どもの様子や授業に対する意見などがあった。

・授業の流れを示してから取り組んでほしい→視覚的に分かるように提示する。

・姿勢について→正しい姿勢を写真で提示したり、姿勢についての話をしたり工夫していく。

・本校の視覚支援がより良いものになるように、取り組んでいく。

・個別教育計画様式Ⅱ、Ⅲについてプロジェクトチームで検討している。

- ・アセスメントを活かしていく。個別教育計画に反映させていく。
- ・New Yokohina week を開催する。模擬店の企画準備運営を縦割りで行っている。当日は客と店員として関わることでコミュニケーション力を高めていく。保護者や放デイの方も招いている。同年齢、その他の方との関りが持てる。
- ・派遣作業で、校外の方との関りを学ぶ。本日も外部へのパン販売がある。

#### <総務管理グループ>

- ・消防署員の方に協力を得て訓練や研修を行い、それをホームページや学校通信で発信した。
- ・アンケートを取り、次年度は様々な想定での訓練を行う。
- ・後期は、地域の方に防災教育への協力をお願いする予定。
- ・学校評価アンケートで、情報の周知の状況について昨年度と比較し検証をする。

#### <連携支援グループ>

- ・昨年度からメモを取る活動を行ってきたが、今年度はあいさつについて取組んでいる。
- ・保護者のニーズに合った研修を企画した。
- ・連携支援に関する掲示板を活用した情報発信について。
- ・派遣作業が再開し、地域の中で活動できている。
- ・センター的機能として情報発信を行う。また、人材バンクについて準備をしている。

#### <教育推進グループ>

- ・授業で消費者教育を実施する際は、学習指導要領の3つの視点を意識して取組んだ。授業後にアンケートを提出してもらう。
- ・3年悪徳商法など、2年環境学習を行った。後期は生徒会選挙があり、政治参加教育をすべての学年が行う。
- ・人権研修の報告、さらにアンケートの回収率を上げていきたい。
- ・8月24日、副校長より視覚障害者の歩行ガイドについての研修を行った。障害者の視点に立つことで、相乗効果のある研修になったのではないかと。
- ・今後の研修の予定について、12月総合教育センター教育心理相談員、1月SSWの方を講師に招く。

<質疑応答>

委員

あいさつについて、校内見学中に「オアシス」が掲示してあった。会社でも唱和している。オアシスに「少々お待ちください」をプラスした。練習は必要だが、毎日行っていると慣れてきてしまう。また、とっさの時に言えるか、お客さんをイメージしながら練習している。コミュニケーション力を高めるための入り口としては良い。

委員（質問）

シチズンシップ教育について、新しい情報はあるか。

事務局（回答）

前期は、契約、環境問題しかできていない。

委員（質問）

こういうのがシチズンシップ教育であるというものはあるか。

事務局（回答）

どういう分野があるのかは、年度初めに授業担当に知らせている。それについて取組んだ時、アンケートを書いて出してもらっている。

委員

校内見学をして作業の様子を見た。設立当初の理念と、現在との比較で、いい意味で緊張感なくできているのは良い。設立当初はSSEもあり、自分で判断して動くことを行っていた。ごちゃごちゃしていなかった。状況を分かりやすくしてやり、自分で考えて動けるようにしていた。緊張感がある。分かりやすくすることが必要。なんとなく流れてしまうことが多いと、個人がどこでつまづいているかが分からない。集団が固まって動いているように感じた。

委員

色々な意見をもらったので、それぞれの場面でフィードバックしてほしい。

中間評価のため後半に向けて動いていくが、何か追加であるか。

委員

校舎内がきれい。中学時代は、あまり学校に来ていなかった生徒（卒業生）が声をかけてくれてうれしかった。

委員（質問）

不登校だった生徒が、通えていることについてどういうアプローチをしたか。

**事務局（回答）**

中学時代のこともあり、本校に入学後心配した。初めは登校できないこともあったが、友だち関係が広がり登校につながっている。今の1年生の状況として、作業にのれない子が多い。昔は逆だった。コロナだった期間があり、人との関りが苦手なのかもしれない。

**委員（質問）**

学部の新しい課題も聞けた。地域がらみで何かあるか。

**委員（回答）**

昔、この学校で下瀬谷消防署がはしごでの訓練をしたことがあった。その様子を公開したり、消防署の防災訓練を見学したりすることも良いのでは。

**委員**

いろいろ参考となる意見が出たので、後半も引き続き取り組んでほしい。

**②不祥事ゼロプログラム**

不祥事を許さない取組のキーワードとして、自分事として考えること、不祥事に対するハードルを下げないことがある。

形骸化を避けるために、管理職や総括教諭からの話を聞くだけでなく、学年やグループで自ら考えて、発表する方法をとっている。1学年からは、体罰防止について。3学年から職場でのハラスメントについて、日常の会話の中にあるハラスメントについて。2学年からは、生徒に対するわいせつ行為の防止。

今後、入学選抜、交通事故について等企画していく。

**<質疑応答>**

**委員**

良い取り組みだと思う。自分の所属校でも夏休みに不祥事防止研修を行った。職員同士でロールプレイングやディスカッションを行った。管理職からの研修も必要だが、同僚同士の言葉が大切。ピアサポートが大切。

**委員**

この後も自分事として取り組んでほしい。

## 5 切れ目ない支援部会

### 委員

この部会では「共生社会の実現に向けて」というテーマに取り組んできた。それぞれが、それぞれの場所ごとの課題やテーマに取り組んでいることを確認してきたが、今回は、現在のわが国の社会の特質、超高齢社会ということを入り口にしたい。2023年現在では65歳以上の人口に占める割合が29.1%となり、過去最高。1997年に介護保険法を成立させ、2000年から施行されている。この法律は「介護の社会化」がテーマで、高齢者の介護問題（ニーズ）に、在宅サービス、施設サービス、地域密着型サービスなどで対応しようというものである。2019年では介護従事者211万人。常に人手不足の現状がある。知的障害を持つ人たちも何らかの形で介護の場に関わることは理にかなっている。この学校でも就労の実績がある。それについて報告を聞き現状や課題について話し合いたい。

### 事務局

老人ホーム関係に就労した方12名中8名が在職、4名は退職。退職した方についての経緯はそれぞれ、2年務めたが、精神的に体調を崩し退職。3年務めて他の職に就きたいと退職。1年未満で嫌になった。2年程度務めたが、疲れてしまい精神的に不安定になり退職。他の方は、清掃関係が多い。備品管理、利用者の介護についている方も少ないがいる。

### 委員（質問）

アルバイト就労8番について、仕事内容が「利用者の介護等」というのは、具体的なことは分かるか？

### 事務局

分からないが、清掃などか。

### 委員

自分の仕事柄でいうと、介護系の方の3年と10年の壁というものがある。10年やると、これだけできているので、もっとという負荷をかけられてしまう。大きい規模の介護施設では、同じことを設定する。小さいところは広げて不応を起す。知的な障害のある方は、自分にとって負担、もう少しやれるなどのやり取りが難しい。聞き取りが難しい。その人の状態に応じて定期的に聞き取りができると長続きする。本人の中で整理がつかない状態で結論が早急に出てしまう。家庭のフォローも大事だが、自分の意思を表明できる力が大切。

3年までは頑張れる理由として、学校のアフターフォローがある。いろいろな相談員がいるが、セットで就職できると良い。全体的に人手が足りない。

**委員**

自分の思いをどう伝えるか、ユニバーサルな課題である。

**委員**

自分の思いを伝えるのは難しい。最低賃金、賞与も同じ。個別化、差別化がない。何がモチベーションになるか。お客さんから声をかけられることがやりがいにつながっている。知的障害者は変化や変更にも弱いと思っていた。違う仕事に取り組む時、スケジュールや仕事内容をしっかり説明すれば、ずっとやっていた仕事からの気分転換にもなる。ずっと同じ仕事ではなく、向上心、刺激、やりがい、変化も大切。

**委員（質問）**

進路支援の中で老人介護系の仕事の扱いは、どうか。

**事務局（回答）**

清掃活動や人と関わるのが好きなど生徒から話があればつなげていく。事業所からの依頼は数としては少ない。コロナの関係もあり少なかった。全体的には多くない。

**委員**

コロナの後、AI、ロボットなどの職場への介入が増えたが、介護事業について人は人として必要だと感じている。

**委員**

仕事のやり方が、感覚が違ふと感じる。昔のイベント会場設営では、駐車スペースのラインを自分たちで引いたが、今はすべて委託で済む。仕事のやり方が全く変わった。パソコンに向かっていけば済んでしまう。人任せでお金を払えばできてしまう。想像できないような仕事のやり方なのでは。横浜市役所は、セキュリティで、市民が市役所に入れないと新聞に書いてあった。市役所の職員が市民と触れ合えないのはどうかと思う。コミュニケーションをとるのもより大変になっていると思う。

**委員**

共生社会を考えると、色々な職場で活躍している状態が理想。な

かなかそうではないが。老人施設で働く卒業生がいるとしたら、共生社会の視点では健常者の障害者理解がないとうまくいかないと思う。理想はどこでも区別なく入っていくことが理想だが、そこでどう活躍するかを考えると、健常の方にいろいろ理解がないと難しい、持続しない。生徒は自分から発信することが苦手なのは事実なので、3年間の中でそうした力を付けていくよう、生徒のよさを引き出す努力はしている。共生社会を作ることは理想だが、健常者の理解が必要である。障害のある方も少しずつ努力して、状況を理解することができるとうい。

**委員**

いろいろな意味での受け入れ態勢ですね。

**委員**

横浜市の障害者後見的支援制度というのがある。横浜市民は障害者が社会に出ることを手助けし、障害者は積極的に社会に参加しなければならない。横浜市はこうした土壌があるので、共生社会に向けて進んでほしい。

**委員**

今日のテーマは、自分の思いや感情をどう伝えるか、対話的コミュニケーションが重要。3年間でどうアプローチするか考えてほしい。産業構造が変わるなかで、どのような活躍の場があるのか見極めてほしい。障害のある人たちの積極性、受入側の意識の重要性、アタックする気持ちなど、もう少し広く考えていく必要がある。

**事務連絡**

- ・第3回2月下旬を予定している。2月27日（火）はどうか。
- ・帰りに、本日作ったパンをお持ち帰りいただく。
- ・10周年のプリント校名が違っているために差替える。

以上